

1 資料

- (1) 令和4年度 第2回学校運営協議会次第／座席表
- (2) 令和4年度 学校評価報告書（中間報告）
- (3) 神奈川県立港北高等学校（全日制課程普通科）におけるスクール・ポリシー
- (4) 学校教育計画 4年間の目標と主な方策（令和2年度～5年度）
- (5) 令和4年度の学校行事・部活動実績について

2 学校からの報告事項

○ 学校評価中間報告書について

1 「教育課程 学習指導」

●新課程について

今年度の1学年から新学習指導要領に変更した。そのため3年間を見通した選択科目の取り方等、保護者も含めて新課程について周知することが課題であった。6月に対面形式で説明会を実施した際には、予想を超える参加者があった。生徒、保護者には一定の理解を得られたと考えられる。

●生徒会活動・委員会活動について

コロナ禍ではありつつも、文化祭では保護者の入場を可能とすることができた。オンラインと対面の両方の形をとりつつ生徒会活動や委員会活動を行ってきた。できるだけ生徒主体で活動が行えるよう、来年度以降も更にサポートしていきたい。

●ICTの利活用について

今年度の授業力改善のテーマとしてICTの利活用がある。ICT推進校の都立町田高校へ視察に行き、全教員で情報共有するという取り組みをした。また今週は授業互見教科週間であり、教員間での授業見学を強化している。

●「総合的な探究の時間」改善計画について

今年度は、「総合的な探究の時間」推進校の県内2校、都立高校2校を視察し、遠方の高校を2校視察予定である。視察で得た知見については、計画に向けて活用することを進めている。現段階で新計画については企画会議で協議中である。

●「総合的な探究の時間」について

今後の計画では「総合的な探究の時間」の中で「課題研究」を推進することを予定している。これまで1学年の授業、3年生の一部の授業内で行ってはいたものの、今後はその活動をより本格的に進めることを考えている。活動の最終的な着地点として、生徒がそれぞれの興味関心に基づいてテーマ設定を行い、それを探究する、また探究結果を発表する機会を設けるということを想定している。外部の発表会への参加、外部機関との連携に関しても検討中である。

2 「生徒指導・支援」

1、2学期にかけて、生徒へのサポートが充実できたと思われる。状況に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部機関とも連携して支援体制をつくりあげている。

3 「進路指導・支援」

進路指導に関しては、入試制度が変化しているため、担任間で共通理解をもって進路指導ができるように注意してきた。新年度に向けては、来年度から課題研究が始まるため、新年度に向けた計画をできるだけ早期に決定していきたい。

4 「地域等との協働」

●地域貢献デーについて

今年度は地域貢献活動として、1学年の生徒が清掃活動を行う地域貢献デーを設けた。

●ホームページについて

コンピュータ部の生徒が作成した動画を投稿するなど、情報の更新をした。問題点としては、部活動の更新を各担当者に任せているが、更新の頻度にばらつきが見られることである。随時声掛けをして、適宜更新するようにしていく。

5 「学校管理 学校運営」

学校行事の運営、地域との連携・協働の推進等を行ってきた。月1回の不祥事防止研修や、職場アンケートを実施して業務を可視化する等のことを試みた。今年度の残りの期間も同様に尽力していきたい。

3 意見及び改善策の提案について（委員の方々より）

○生徒のマナーについて

6～7年前から急激に生徒のマナーが改善されてきたように感じる。今後も学校の総合的な指導を期待するとともに、地域として見守ってゆきたい。

○地域間協働について

来年度、地域清掃の際に小学校と高校で協働することは可能ではないか。マーチングバンドの指導に関して、なかなか教員だけでは難しいところもあり、高校生の力が借りられるとうれしい。また特別陸上クラブ等の活動もあるため、その際も高校生に教えていただけたら子供たちのモチベーションも上がるのではないかと考えている。また、「総合的な探究の時間の発表」に参加できれば喜ばしく感じる。

○ホームページ更新について

生徒たちの考えを取り入れたホームページ更新はとてもよいと感じた。提案しようと考えている。

○自学力について

生徒の主体的な学びを促進するためには非常に大切なことだと感じた。教師に教えられて学ぶだけではなく、生徒自身で課題を設定し学習することは極めて重要である。

○進路指導について

高校での進路指導は、キャリア教育と入試に対応できる学力をつけるという両輪に基づいている。キャリア教育という点では、高校卒業後に就職するケースが少ない港北高校の場合、上級学校への進学が念頭に置かれている。上級学校でどのような学問をしたいか、そのような学問ができる学校はどこにあるかを研究することがキャリア教育の内容である。同時に、そうした上級学校に進学できるよう学力を伸ばしていくことも課題である。

入試科目における全国レベルの自分の位置を把握することが重要である。入試科目における実力を磨き、目指す目標を実現できるだけの力をつけることが大きな課題となる。そのため様々な手立てをしていきたいと考えており、その一つが模擬試験の導入である。

○行事について

2学期には文化祭、修学旅行が行われた。文化祭に参加したところ、子どもたちが楽しそうにしていた姿が印象的であった。これまで通常通りできなかった行事が実施でき、子どもたちのよい思い出になるような行事が開催されていくことは、学校生活において重要であると思われる。来年以降も実施できることを期待している。

また、保護者が学校に来る機会が増えていることもよいと感じる。今まで保護者間で話をするのは難しかったが、学校に来る機会が増えればそれだけ保護者間での交流も深まるのではないかと感じる。

○同窓会より

部活動実績を確認したが、今年は同窓会から横断幕を18枚提供した。徐々に生徒が部活動で実績を出せる環境が整ってきていることを喜ばしく思う。また、他に大会遠征費も同窓会から補助させていただいている。今後も同窓会から生徒の活動を援助できればと思う。